

阿蘇市
子ども・子育て支援事業計画ニーズ調査
結果報告書（概要版）



令和6年3月

阿蘇市

アンケート調査結果

1. 調査の概要

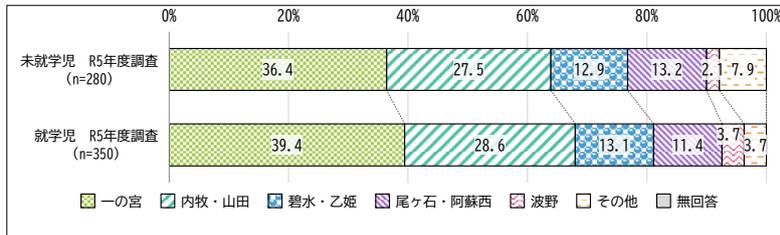
調査対象	阿蘇市在住の未就学児・就学児の保護者
調査方法	インターネットによる配布・回収
調査期間	令和6年2月
回収結果	未就学児：配布数830件 有効回収数280件（有効回答率 33.7%） 就学児：配布数1,190件 有効回収数350件（有効回答率 29.4%）

2. 回答者の属性

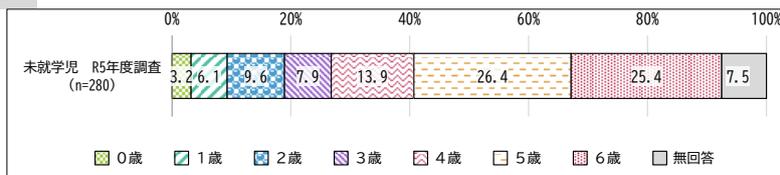
調査対象者は、0歳から6歳までの子育てを行っている保護者、小学1年生から小学6年生までの子育てを行っている保護者で、回答者の多くが母親（未就学児87.9%、就学児87.1%）となります。

よって、本調査の結果は、主に「母親」の立場から見た子どもの生活状況や子育てに関する意識として考察することが妥当と考えられます。

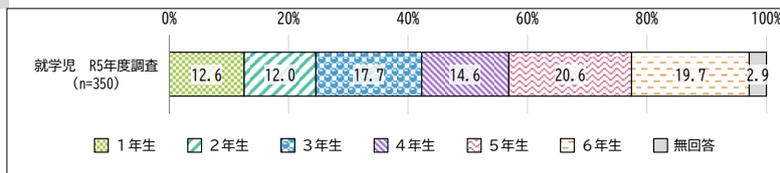
■ お住いの地区



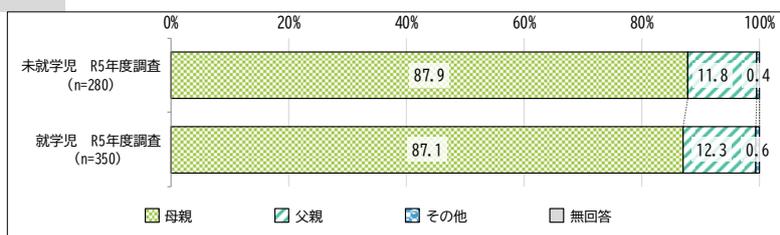
■ 未就学児の年齢



■ 就学児の学年



■ 回答者の配偶状況



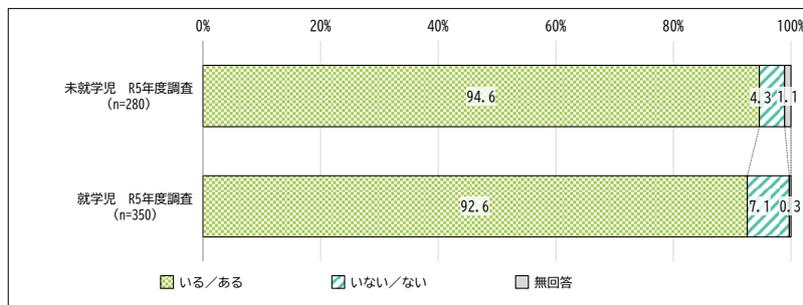
3. 子どもの育ちをめぐる環境について

■ 相談できる環境

子育てをする上で、気軽に相談できる相手・場所が「いる/ある」の割合は、未就学児94.6%、就学児92.6%となっています。一方、「いない/ない」とする回答は未就学児4.3%、就学児7.1%となっています。

子育ての悩みは、子どもの成長段階や家族構成によって変わってくるため、保護者のニーズに合わせた多様な内容で学習機会を提供するとともに、子育て相談窓口の周知を徹底していくことが求められています。気軽に相談できる相談窓口があれば、育児不安を抱えた人の発見や児童虐待などの未然防止につながると考えられます。

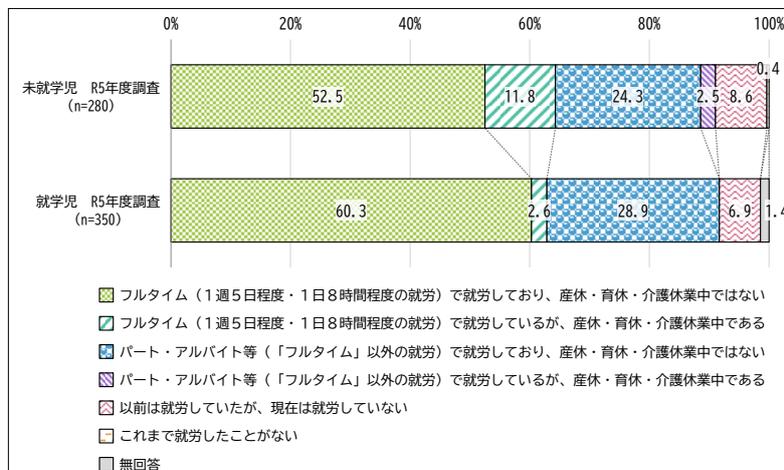
■ 気軽に相談できる人・場所の有無



■ 保護者の就労状況

母親の就労状況をみると、『フルタイム就労』が未就学児64.3%、就学児62.9%、『フルタイム以外で就労』が未就学児26.8%、就学児35.8%、『就労していない』人が未就学児8.6%、就学児6.9%となっています。母親が、子どもの年齢に合わせて、時間制約の少ないパート就労をする様子が見え、母親の育児と仕事の両立を求めている状況が続いています。

■ 母親の就労状況

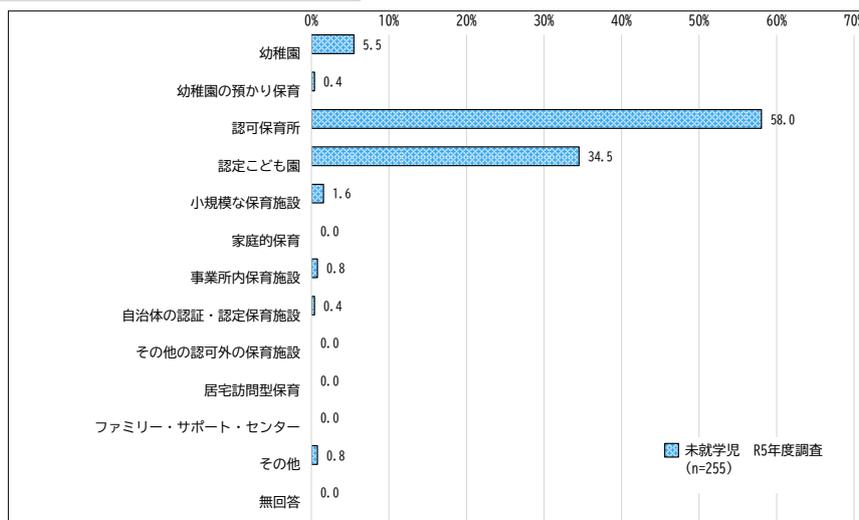


4. 子どもの教育・保育事業等について

■ 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況

阿蘇市の未就学児の保護者は、幼稚園や保育園などの定期的な教育・保育事業を9割以上利用しています。利用している施設は、「認可保育所」が58.0%、「認定こども園」が34.5%となり、合わせて92.5%となっています。認可保育所、認定こども園ともに、子どもへの教育・保育のメイン事業となっており、保護者の就労関係等に対応しやすいためと考えます。

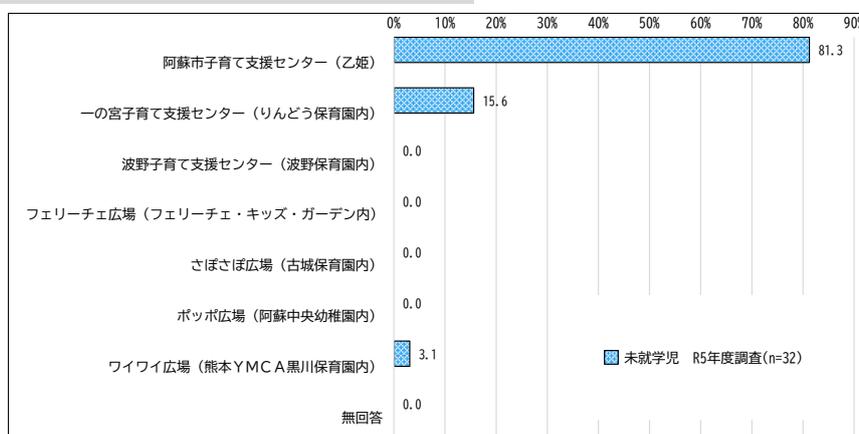
■ 定期的にご利用している事業の利用状況



■ 地域の子育て支援事業の利用状況

公共施設や保育所、児童館など地域にある身近な場所で、子育て中の親子が気軽に集い、相互交流や育児相談ができる場を提供する子育て支援事業の利用状況については、阿蘇市子育て支援センター（乙姫）」が81.3%、次いで「一の宮子育て支援センター（りんどう保育園内）」15.6%となっています。上記の2箇所以外の事業でも様々な取組が行われているので、子育ての身近な相談所として、ニーズに合わせた活用が必要です。

■ 現在の地域子育て支援拠点事業の施設利用状況

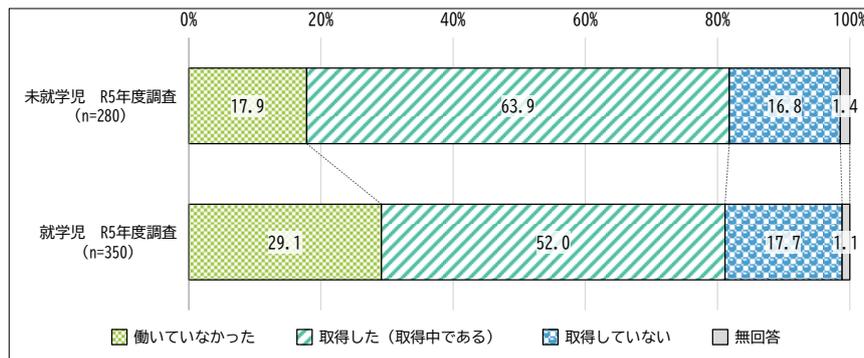


■ 育児休業など職場の両立支援制度について

保護者の働き方が多様化している中、育児休業等の支援制度は子どもの健やかな成長、保護者の心身の負担軽減のために大切なものです。

保護者の育児休業取得の状況を見ると、母親の育児休業取得は未就学児は63.9%、就学児は52.0%となっています。5割以上の母親が取得しており、育児と仕事の両立を実現するために欠かせない制度として浸透していることがわかります。

■ 母親の育児休業の取得状況



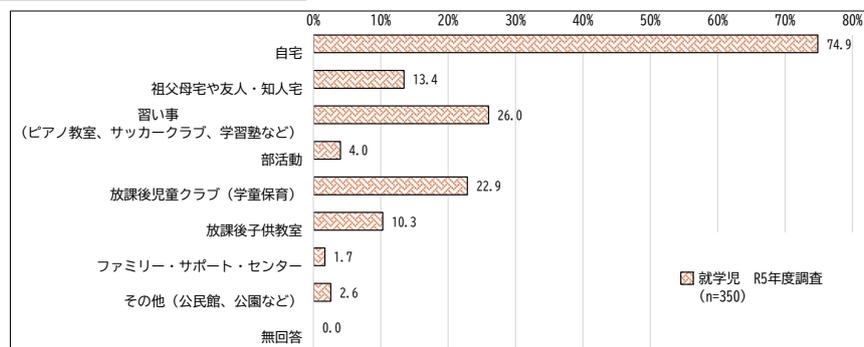
■ 放課後の過ごし方について

子どもが小学校に進級し、その放課後の過ごし方や場所を把握しておくことは、子どもの安否確認につながり、就労している保護者にとっても安心できることです。

就学児の放課後の過ごし方の現状については、「自宅」が74.9%と最も高く、次いで「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」26.0%となっています。

保護者の就業状況によっては、放課後児童クラブ（学童保育）のニーズは高いものだと思います。今後は、社会情勢による就業構造の変化に柔軟に対応できる放課後児童クラブの在り方も必要と思われます。

■ 就学児の放課後の過ごし方の現状



ヒアリング調査結果

1. 調査の概要

調査対象	阿蘇中学校 生徒会役員 阿蘇中央高校 生徒会役員
調査方法	対面式によるヒアリング調査
調査期間	令和6年2月26日（月）

2. 調査結果

問1 「こどもまんなか社会」のイメージと取組み

■ 「こどもまんなか社会」のイメージ

中学生	・子どもの意見を存分に取り入れる社会だと思う。
高校生	・子どもの為に、社会が合わせる。 ・子どもの意見や利益を第一に考えること。 ・子どもを中心とした考え方で、子どもの目線に立って必要なことを考えていくこと。 ・子どもを社会全体で守っていく。 ・子ども中心に考えながら、社会全体が回っていくようなこと。

問2 阿蘇市は子どもにとって住みやすいか

■ 住みやすいと思う方は理由

中学生	・近くにスーパーなど店があり、体育館などの体を動かすところがある。 ・地区ごとに遊び場があり、地区の色んな人と話すから近所の人と気軽に話せる。
高校生	・小学4年生の時に引っ越してきた。遊ぶこと、学校が遠いなどの不自由はなかった。 「総合的な探求の時間」の中で阿蘇市の門前町商店街や地域の課題を探すということをした中で、課題として子どもが楽しめる施設があまりない。内牧は遊び場があるが、小さい子ども向けの施設はこの近辺には少ないと思う。 ・子どもも大人もだが、普通に生活する分には自然も豊かで、水も食べ物もおいしいので住みやすい。ただ、子ども達が遊べる場所が少なく、自分達が遊びに行くにしても他市に行くことが多いので子どもが楽しめる場所が確保できると更にいいと思う。

問3 子どもにとって住みやすいまちになるためにはどうしたらよいか

■ 日常・通学等で不便さを感じるところ

中学生	<ul style="list-style-type: none">・バス停に屋根がほしい。バス停の前に横断歩道があるがそこで事故があったりしたので、信号などをつけてほしい。・家の塀で死角になっているところがあり、自動車が来ているか確認できないところが多くある。
高校生	<ul style="list-style-type: none">・道が狭い。白線が消えかけて、歩行者の通路が狭い。入り組んでいる道路にカーブミラーが無かったりして危ない思いをしたことがある。小さい子の通学路もあるので道路を中心に事故が起きないように改善ができると思う。道路が地震でかなりガタついている所が多く、それで転倒したら歩行者に危険が及ぶ。その道路の舗装を行うことで子ども達に気を配ってほしい。・休日は観光客（阿蘇神社、門前町商店街など）が多いので、親の自動車などで通ると観光客が道まで出ていたり、横断歩道のないところを通ったりして危ない時があった。

問4 その他、意見交換

■ 自由な意見・市への要望

中学生	<ul style="list-style-type: none">・幅広い世代で楽しめるイベントを催してもらいたい。
高校生	<ul style="list-style-type: none">・バス通学だが通学時に観光客でバスが埋まってしまい、バスに乗れない事があった。一人しか乗っていないこともあるが、そういう時があると不便。帰りに友達と立ち寄れる場所があると友達と一緒に楽しめる。・遊べる場所が少ないので、マクドナルド、イオンなど立ち寄れる場所があるといいが、阿蘇は水や食べ物おいしいし、阿蘇の食べ物は赤牛のイメージが強いが、赤牛以外にもおいしい食べ物がたくさんあるので、それを他の地域へ発信していけると多くの人が阿蘇に興味を持ってくれると思う。・遊ぶ場所が少ない。阿蘇市は少子化が進んで、高齢者が地域に住んでいるが、そういう方々は阿蘇市の知恵のようなものを持っている。しかし、関わる事や関われる場所がないので、そういう方々の繋がりがほしいし、授業の一環として阿蘇市について考えること「総合的な探求の時間」があるが、それ以外でも小中学生の考えていることがあると思うので市役所や学校が協力して伝えられるようにすると思う。

子ども・子育て支援事業計画二一ズ調査
結果報告書
概要版

令和6（2024）年3月

発行 阿蘇市 福祉課

〒869-2695

熊本県阿蘇市一の宮町宮地504番地1

TEL 0967-22-3167/FAX 0967-35-4114
